経営者環境力と今後の展望について

吉本英代　（よしもと　ひでよ／株式会社ゆいわーく　代表取締役）

株式会社ゆいわーくの吉本と申します。

2022年度経営者環境力大賞をいただき、誠に光栄に存じます。私どもゆいわーくは保険代理店です。本店を世界的大都市の中心、東京都杉並区におき、世界自然遺産である鹿児島県の奄美大島と徳之島にそれぞれ支店を開設している、ユニークな会社です。事業内容は、保険代理業を中核に、積極的に事業多角化を行い、保険を中心とした全事業の品質と生産性の向上、地域貢献、地方創生に取り組んでいます。

私は徳之島の出身です。島自体が、奄美大島とともに、2021年にユネスコの世界自然遺産に登録されました。エメラルドブルーの海や、色とりどりの熱帯の花や極彩色の鳥たち、穏やかな島民の笑顔は私の原風景の一部です。大海に浮かぶ小さな島々は、古来より大自然と人々とが共存して、伝統と革新とをうまく織り交ぜて、人々が助け合って、発展してまいりました。大都会にはない、目に見える自然環境の中で育ちました。

社名の由来は徳之島の方言です。「農作業などを通じて助け合いながら作業すること」を「ゆいわく」と言います。ゆいわくの「ゆい」と、働く（仕事）の“Work”を合わせて、「お互い助け合い強く結びつく仕事」という思いを込めて、『ゆいわーく』としました。本店（東京）、奄美大島、徳之島とそれぞれの拠点間で人事も情報も活発に交流して切磋琢磨しています。それぞれの地域性を活かしながら営業活動を展開し、地域社会と一体となり、地域活性化に取り組んでおります。

私は常々、生産性向上と品質の向上を強く意識しながら会社の経営をしております。「最小限のエネルギーで最大限の成果」をモットーにしています。仕事や生活でも必ず発生するCO_2を最小化することができると思います。

例えば高齢者雇用です。現在当社では、81歳を筆頭に70歳代が3人、現役で保険営業に従事しています。若手のサポートスタッフと一緒になってチームワークを発揮し、生き生きと働いています。高齢になっても社会と関わり、仕事をすることによって人は必ず健康管理をします。その結果、病気せず、医療費の軽減にも貢献します。医療行為の量の削減＝CO_2の削減に資すると考えています。

また保険会社「東京海上日動」と連携して、グリーンイノベーションの一環として、デジタル技術を最大限活用した「ペーパーレス」にも取り組んでいます。用紙代や印刷代などコスト削減、3拠点間のリアルタイム情報共有などの業務効率化、省スペースによる賃料抑制などの経済的メリットが大きいだけでなく、個人情報が記載されている重要書類の紛失・盗難リスクが低減します。さらに、テレワークなど働き方の多様化も促進することから、環境負荷を大きく減らす取組だと思っています。紙、インクや電気、ファイル用品、保管場所という目に見えるモノだけでなく、テレワークによる移動量の大幅削減も実現しています。

私どもは大企業ではありませんが、保険代理業の業界の中では比較的企業規模が大きく、日頃からM&Aにも注力しています。多様な経歴の、多くの募集人が結集して、一つの理念のもとに高品質の保険代理業を推進していくことは、「お客様本位」「生産性向上」「品質向上」を実現していくことになります。求められるサービスを、効率的に的確に、高い

レベルでご提供し続けること、これも又、脱炭素にも通じるものと確信しています。

奄美大島支店では、島民と島外にいる家族をデジタル（ネット）でつなぐ「リアルとデジタルのベストミックス」を推進しています。リアルとは、従来型の対面で面談する方法、デジタルとはZoomなどを活用してネット上で面談し、契約まで完結する方法です。従来は、保険の相談や手続きは、お客様と面談が必須で、訪問するか、ご来店いただくかの二択で、いずれにせよ、物理的に対面での面談を伴いました。ところが、新型コロナウイルス感染症を契機として、保険会社のデジタルインフラが劇的に進化したことに加えて、デジタルに対するお客様の認知も上がりました。お客様にとっても保険相談のハードルが著しく下がり、移動・時間コストも下がりました。当社はこれを強力に推進することで、自動車などの移動に関わるCO_2の排出を劇的に減らしました。

更にふるさと納税の呼びかけや、世界遺産である奄美への来島者誘導など地方創生「島興し」にも積極的に取り組んでいます。

徳之島では保険を核とした多角経営を目指し、地域課題の解決に主眼をおいた多角経営そのものが社会貢献（島興し）と意識しています。

農業は、島々の主要産業でありながら、従事者の高齢化は徳之島でも深刻な社会問題です。当社の農業事業部では、後継者のいない高齢農家の人々に身近に寄り添い、タンカンやジャガイモなどの農産物栽培のノウハウを引き継ぎ、畑をそのまま借り受け、体力を伴う農作業は若者が担い、可能な限り農作業に従事していく。相互に補完しながら、農業を持続可能な形にするお手伝いをしています。

また、農耕器具はそのままにしておくと使えなくなり、産業廃棄物となり環境破壊にもつながります。他方、一から全て器具類を揃えるには初期投資の負担も大きいし、エネルギー負荷も大きいことから、使用中の器具をメンテナンスして、共同で使い続けることで経済的コストを低減しつつ、環境負担を減らす。これも脱炭素につながっています。

大都会（都市）と大自然（地方）とは、それぞれの特徴があります。大都会では、自然環境との距離が遠く、環境の捉え方がどこか抽象的になりがちです。地方はその逆です。この両方をよく知る当社ならではのご提案や課題解決を通じて、広く社会に貢献できるように、全てのステークホルダーと共に楽しく、明るく、一歩一歩前進してまいります。

今後の展開は、例えば、民泊事業による空家の有効利用（新築ではなくリフォームして）、レンタカー・運転代行・配送業務による自動車稼働率の向上、国立の農業大学との連携で農業活性化を進めるなど、多岐にわたります。いずれも、保険で培った高品質な業務遂行力を活かして、多角経営で事業間の相乗効果を高めつつ、脱炭素を進めていきます。

今後も企業活動をする上で、会社としても、また経営者としても環境力を向上させながら、社会貢献も同様に取り組んでまいります。

徳之島の風景